

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM ( FM あすも ) 番組

平成 26 年 2 月 12 日 ( 水 ) 17 : 20 ~ 17 : 30 ( 塩竈一常 GET KING!! )

( 再放送 : 2 月 16 日 ( 日 ) 9 : 00 ~ 10 : 00 REFRESH!! )

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 1 回放送 一関市医療と介護の連携連絡会 幹事長

一関中央クリニック 院長 長澤 茂先生

( 聞き手 : 塩竈一常 )

**塩竈** ラジオはこころ、くらしとくらしをつないでいく架け橋。誰かに寄り添う、その強さ、その優しさ、そのぬくもり。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」の時間です。

このコーナーは、高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療から介護への切れ目ないサービス提供を目指し、医療機関や介護施設の役割や利用方法を市民の方々と、医療・介護・福祉関係者が共に理解・協力することを目的に、一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 今日はスタジオにお客様をお迎えしました。一関市医療と介護の連携連絡会幹事長、そして一関中央クリニックの院長でいらっしゃいます長澤茂先生にお越し頂きました。長澤茂先生よろしくお願ひします。

**長澤** どうぞ、よろしくお願ひします。

**塩竈** 長澤茂先生の声、お名前は、市内に住んでいる方はご存知の方が多いと思うのですが、このシーズンですと、インフルエンザとか患者さんが多いのではないですか。

**長澤** はい、とても多くなりましたね。うちのクリニックですと、インフルエンザの定点観測所といって、出た場合には保健所にご連絡というお役目を仰せつかってますので、ずいぶんここ 1、2 週間で増えてきたなという。今日も 4、5 人出ました。

**塩竈** そうですか。収録を 2 月 6 日に行って

いるんですけど、その身体、健康を保っていくところを皆さん心がけて頂きたいところです。このコーナーを通じて、皆さんにも医療というものに積極的に関わっていかうところなのですが、先生、肩書のところに、名刺のところには沢山あるのですが、その中のひとつ一関市医療と介護の連携連絡会幹事会の幹事長でいらっしゃるということなのですが、医療と介護の連携連絡会というのはどのような会なのでしょう。

**長澤** ご承知のとおり色々な各地域で日本人の平均寿命がどんどん長くなってきたり、癌を筆頭に、なかなか医療がまだ完全に治すという技術まで及んでいないと。あるいは認知症の問題もその通りですが、病院で全て OK だという時代ではなくなりましたですね。特に、お年寄りの場合には、肺炎になった・肺炎を治した・さあ家に戻りました。寝ている間の期間が長くて、手足が動かなくなったとかですね。そうなると、ご自分の家で、ご自分らしく生活をしたいという方を、どうやってサポートしたら良いかというふうな問題が出てまいりました。よく言われる二十世紀型の医療と、全部病院に任せておけば良いんだという時代もあったのですが、最近はそれプラス、その人らしいその生活を支えようという。その人の生まれ育った地域で、一生を穏やかに終えるためにはどうすれば良いかということで、福祉、あるいは生活ということにウエイトが重きを置かれてきたということですね背景にあります。そのために、医療だけではなくてここにあります介護、それは西暦 2000 年ですから平成 12 年から介護保険が

始まりましたけれど、皆でその方の生活を支えようと、医療とが一緒に進む方向性を同一にして病院であってもご自宅であっても、その人らしい一生を寄り添ってあげればということが背景にありますね。

**塩竈** そうですか。聞いていますと、一関地方の高齢化率が3割を超えているということで、いろんな皆さんが心豊かに、充実して暮らすためには、一関だけでなく全国的な課題になっている訳ですね。こういった地域医療を守っていくために、先程お話ししましたけれど福祉や保健もこういったところが連携を取っていく。医療と介護の連携連絡会は、こういった団体の皆さんが関わっているのでしょうか。

**長澤** ずいぶん数多くの職の方が入っていませんけれども、医師会、歯科医師会、薬剤師会、県立病院の先生方、連携室の方々、ご自宅に訪問するという部分では、訪問看護、訪問介護さん、ヘルパーさんとか、ケアマネージャーさんですね。それから理学療法士さんとか、作業療法士さん、行政では地域包括の職員の方々、ここでは一関市となっていますが、平泉町も一緒に歩調を揃えまして、県としては保健所の方々のご指導を頂きながら。数多くの方々が、それぞれの立場で意見を述べ合っていて、良い物に作り上げていこうというところであります。

**塩竈** 健康な生活を送っていく為に、色々な分野での取り組み、アイデア、現場での悩み等が持ち寄られる訳ですね。

**長澤** そうですね。

**塩竈** 現在ですけど、医療と介護の連携は、一関では具体的にどんな連携があるのか先生に伺って行こうと思います。様々な職種が連携して行く、色々な工夫があると思うのですが、これはどんな取り組みなのでしょう。

**長澤** それぞれのお仕事の内容を、まずお互いを理解する事と。顔の見える関係の構築と

言っていますけれど、我々医師会の活動と、訪問看護の動きでは持ちつ持たれつなのですが、見えない所も多々ある訳です。垣根をお互いに手を携えて、色々な悩み、工夫等々を、色々な方々を同じ目線でもって集まって頂いて、教えを拝借すると。というところが、一番の重要なポイントであると思います。

**塩竈** 様々な知恵や経験を持ち寄るということですね。そういった方々が集まることによって、アイデアが磨かれていくのですね。

**長澤** そうあって欲しいですね。

**塩竈** それから、チーム医療という言葉もあります。これについては、どうでしょうか。

**長澤** チーム医療はですね、在宅を意識してのお話をさせていただきますと、患者さんの家と先生方と24時間365日、ご自分が在宅の患者さんを診るよという制度があります。私もずっとやっていたのですが、1人だと例えば出掛けるとか留守にするという場合に、なかなか十分な活動が出来ないという事がありますので、チームを組んで、複数の先生にサポートして頂いて、在宅の方の健康を支えるというのが、チーム医療であります。

**塩竈** 在宅医療という言葉が出てきましたけれど、ご自宅で生活、協力を高めて行く事が大事と言われています。介護の現場の皆さんとの繋がりというのは、とても大事ですね。

**長澤** 大事ですね。介護職、ヘルパーの方々が、いつもと違うぞというのがきっかけで、今話題の認知症の早期発見に繋がったり、飲んだり食べたりが上手に行かないという事から、肺炎の防止に繋がったりと。様々なことがありますね。

**塩竈** そういった皆さんと、先程お話に出てきました病院であったり、医師の皆さんが情報を連絡し合う事によって、より素晴らしい医療に繋げて行けるという訳ですね。それから、往診とか訪問診療、一関では取り組まれ

ている訳ですけれども、住み慣れた地域や家で過ごしたいというのは誰しもありますので、そういった所の充実も求められますね。

**長澤** そうですね。往診というのは、患者さんの家で急変した、熱が出た、具合が悪くなったという場合に、電話を医療機関に頂戴して、先生が駆けつけるというのが昔ながらの往診ですね。それから、訪問診療というのは毎月第2、第4の火曜日の午前中にお邪魔しますという計画に基づいて行うのが訪問診療であります。

**塩竈** 今お話に出てきました通り、様々な職種の皆さんが連携をしながら、皆さんの健康を守る為に、例えば往診、訪問診療、在宅もそうですし、介護をされている方がチームを組んで、皆さんの健康を守る活動をしています。これを結びつけて行くという事で、連携連絡会の皆さんの取り組みですとか、そういったアイデアを生み出していくことも一つですが、お話を聞いていましたらそういった取り組みをされている中で、私達利用する側の意識というの、こういった所を賢く使っていくこともそうですし、現状に合わせて利用方法を考えていく事も大事ですね。

**長澤** 大事ですね。おっしゃる通りですね、医療と介護の連携、様々な職種との連携が非常に上手く行ったという暁にですね、住民の方がどういう風に自分のものとして捉えて、利用して行くのか。厚生労働省では、地域包括ケアシステムと言いますが、結局は1人1人が、ご自分の一生をどんな形で過ごしていたら良いかというのを、考える外側のシステムとして、医療と介護の連携というのが、求められるという風に思うのです。介護だけでも駄目だ、医療だけでも片手落ちだと。そこがしっかり決まってくると、地域コミュニティで過ごす方々が、それぞれが手を携えながら、連携をどういう風に自分達のものとして取り組んでいくか、ここの所が一番の大事なポイントだと思います。

**塩竈** 先生のお話にもありました、20世紀型

の医療という現場、患者さんとの付き合い方を考えていくと、お医者さんや病院に任せて色々な物を結び付けていくという事がありますけれども、それが地域全体で健康を考えて行こうというところになった。受ける側の市民の皆さんの意識を変えていくのも勿論ですし、何よりもこういった取り組みが有るという事を普段から学んでおくことも、大事だと思います。

**長澤** おっしゃる通りですね。病院に行けば良いというのは、疾患によっては勿論ですが、そうも行かない時代が来ております。背景の一つとしては、お話ししました通り高齢者が増えてきたと。生物として生まれて、いつの時は死を迎えるという流れの中で、最期は自分はどんな生活を、医療をと考えた時は、常に考えておく必要があると思います。その時に20世紀型医療のみならず、これからは福祉、生活というモードに入りつつあるだろうというように思いますね。

**塩竈** 医療と介護の連携連絡会に関わっている方々、医療機関や介護施設に関わっている人数が限られている訳ですので、町ぐるみで利用、うまく育てていく事が大事なのだというのを感じます。今日は、一関市医療と介護の連携連絡会幹事会の幹事長、そして一関中央クリニックの院長の長澤茂先生にお越し頂きました。一関市の医療と介護の連携についてお話を伺いました。長澤先生、今日はどうもありがとうございました。

**長澤** お世話様でした。ありがとうございました。

**塩竈** みんなで育てよう地域医療、私たちも積極的に関わっていきましょう。このコーナーは、一関市健康づくり課の提供でお送りしました。